

## へんてこ発表会

町田市立南成瀬小学校 三年 くつぎわ 知広<sup>ともひろ</sup>

ぼくは発明家だ。自由な発想でみんなをびっくりさせたいと思っている。そして、ついにぼくにも数年に一度、全国の発明家が作品を持ち寄り発表する「へんてこ発表会」へのしようたいじょうが届いたのだ。ぼくは最新作をかかえ、会場へ向かった。

発表会場はすでにお客様でいっぱいになっていた。大きなぶたいには、司会者がいて、何組かがもう発表を終えているらしかった。

いよいよぼくの番が来た。きんちょうでむねがはりさけそうだったが、ここ一番の大きな声で発表をはじめた。

「ぼくは、歯みがき車を発明しました。」

会場からはざわざわとどよめく声が聞こえた。ぼくは発明品のしようかいを続ける。

「この車は、歯みがきをていねいに行っていない子供を見つけると「歯みがきしないとだめ〜♪」と楽しい音楽をかなでながら、

あまいおかしをちらつかせ、小さい子供を洗面台までゆうどうする事が出来るのです。

しかし、欠点がありまして、子供の気もちに寄りそう仕様にしすぎてしまい、子供が歯みがきを終えると、ごほうびに、ちらつかせたおかしをわたしてしまうのです。」

ここまでせつ明を終えたぼくに、

「そんな車は使えない。」

「欠点を直してほしい。」

など、文句ばかりがとんできた。

人の苦勞も知らないで。ぼくは思わずさけんでしまった。

「ここまで来るのに10年もかかったんだぞ！」

会場はたちまちしずまりかえり、重たい空気につつまれてしまった。

ぼくはすぐにこうかいした。重たい空気の中、ぼくの発表はまくを閉じた。

その後も発表会は続いた。

「おれは、とびイスを発明しました。とびイスというのは、すわってボタンをおすと地図が出てきて、行きたい場所をおすとどこへでもとんでつれて行ってくれます。欠点は、バランスをくずすと、そのまま落下してしまいますが、その保しようは出来ません。」

ためいきと共に、会場は変わらず重い空気につつまれている。

「私は、色んな文くや悪口などで重たくなつてしまった空気を清せいじようしてくれる「ヨイクウカン」を発明しました。「ヨイクウカン」はスイッチをおすだけで、たちまちその場の空気をよい空気にしてくれます。」  
ポチッと発明家はボタンをおした。

次の人へと発表が変わった。

「私は、氷の本を発明しました。これは、とてもつめたくて夏の読書にはさいてきですが、すぐにとけてしまうため、早く読む事をオススメします。」

なかなかへんてこな商品の発表がこの後も続いたがだれも文くを言わなくなった。発表者たちはへんてこな発明品を発表し、すばらしいよい空気につつまれ、とてもまん足そうだ。

なるほど……。 「ヨイクウカン」のスイッチが入ったままなんだな。  
まったく、実にへんてこな発表会だと思った。

審 査 員 講 評 \*\*\*\*\*

発表されていることが、まさに絶妙なへんてこ具合でとても面白かったです。

「ヨイクウカン」が必要な場所がたくさんありますね。